

国語科

谷口 仁

端名 秀雄

早谷 憲子

共同研究者 折川 司（金沢大学）

1. 伝統文化教育を進めるに当たって

平成 26 年度から 28 年度にかけて ESD 研究を展開してきた本校において、国語科として「グローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成」を実現するために、思考力・判断力・表現力の育成を強化してきた。平成 29 年度に入ってから、研究テーマを「伝統文化教育を中心とした教科等横断的なカリキュラムの開発—グローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成を目指して—」と変更し、ESD 研究の理念や手法を踏襲しつつ、伝統文化教育を中心とした教科等横断的なカリキュラムの開発を進めてきた。特に、「日本文化を積極的に享受する姿勢」、「文化や考え方の多様性の理解」に重点を置き、伝統文化教育を通じた日本の言語感覚を養う実践的研究を行ってきた。研究を深めていく中で、生徒たちは古い時代と現代との文化的な接点や差異、時間の流れによる変容等を見付け、それらの面白さや価値、理由について自分なりに考えを深めたり、それを表現したりすることができるようになってきている。

伝統文化教育研究の 2 年次にあたる今年度は、国語科においては、古典作品をはじめとする日本の様々な言語文化に触れながら、その「言葉」に目を向けていく。言葉で表現されたものを、言葉を用いて受け止め、それを別の言葉で表現していく。それは、メタ言語的な取組を生徒一人一人が自覚しながら、昔から受け継がれてきた言葉という文化、言葉による文化への理解を更に深めるとともに、言語文化について深く考え、言語感覚を研ぎ澄ましていくことが重要だという認識からである。

こうしたことを実現するために、国語科としては、次の言語活動を重視していくこととした。

- ・場面や状況に応じて、適切な言葉を選んで表現する。
- ・言葉によって自分の考えを形成し、交流する。

生徒が思考・想像したことをどのように表現し、交流するかという点に重点的に目を向けることで、最終的には、彼らの言語感覚を豊かなものにしていくことを目指している。それらは本校が取り組んできた教科等横断的なカリキュラムの中で効果的に、また効率よく育成されるものであると認識している。

国語科での学習を起点として学校の教育活動全体と関連させながら、自分なりの「言葉による見方・考え方」を学習において活用していく力や活用しようとする姿勢を養っていかうと考えている。

2. 能力・態度の育成に当たって

(1) 学校全体として育成する資質・能力について

国語科では、言語活動における汎用的な能力を養うとともに、本校の研究が目指す身に付けたい三つの資質・能力の育成にむけて以下のように取り組むこととした。

「①日本の伝統や文化に関する理解」については、我が国の言語文化に関する学習を通して身に付けることができると考えた。古典教材に触れ、古典の世界に親しむこと、古典に表れたものの見方や考え方を知ること、歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して育成を図った。

「②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度」については、自国の言語文化を学ぶ中で養おうとした。言語活動を通して多様な考えを知ったり、課題を解決したりする学習活動を編成していった。

「③文化の伝承・創造への主体性など」については、言語文化として学んだ短歌や俳句などを創作する活動を通して育成し、我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深められると考えた。

①日本の伝統や文化に関する理解

「野原はうたう」「詩の世界」の学習を通じて、季節を感じる風景やそれに対する思いを表現する際、どのような事物に注目し、どんな表現がより適切であるかを詩の創作及び評価を通じて考えた。その際、日本独特の風物詩や言語表現にも注目し、活用しようと試みた。(1年)

「盆土産」の学習を通して、作品全体に用いられている東北方言の温かさやコミュニケーションの手段として優れた点について気付かせた。そのような学習の中で、「歴史や生活の中で継承されてきた言語の能力」を再認識させ、その向上を図ることをねらいとした。(2年)

②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度

詩「春に」では言葉に託された思いをどのように朗読で表現できるのかを考えた。合唱曲となっているので、音楽としての捉え方と朗読する自分たちの捉え方がどのように異なり、どこが共通しているのかなどを考え、言葉の連なりやイメージの連なりを味わうことができた。(3年)

③文化の伝承・創造への主体性など

「空を見上げて」の学習を通じて、「五・七・五」「七・七」の言葉による思いの表現や鑑賞に取り組んだ。連句という詩の形式や、俳句の成り立ちについて触れ、自分たちも同じような表現ができるかどうか、連句として連ねていった際にどのような印象や内容の変化が生じるかを考え、自らの表現活動に活かせるよう工夫した。(1年)

「盆土産」の発展学習として、作品の一部を金沢ことばで表現する活動を行った。自分たちの住んでいる地域の言葉で作品を表現することにより、方言の特徴に目を向けるきっかけを作り、方言と共通語の比較から、やがては日本語と他言語との比較へと発展していくことにより、グローバルな言語感覚が身についていくことを願った。(2年)

金沢市で行っている観能教室に向けた学習として、平家物語に触れ、能「八島」で描かれている背景を理解し、能や狂言の鑑賞につなげることができた。(3年)

「俳句の可能性」や「俳句を味わう」では、少ない字数で表現される情景や心情を味わい、自分の創作につなげることができた。クラスごとに句会を開き、それぞれが作句した句を選び、鑑賞することができた。(3年)

(2) 関連・連携を図った教科等について

〈1年生〉

- ・ 音楽…定型詩や七・五調の詩の持つリズムや唱歌との関連について。(「詩の世界」)
- ・ 美術…作者直筆の鉛筆画による文章と挿絵両面からの解釈。(「大人になれなかった弟たちに…」)
- ・ 社会…貴族文化など登場人物や世界観への理解を深める。(「蓬葉の玉の枝—『竹取物語』から」)

〈2年生〉

- ・ 社会…地理分野で地域社会と言語の違いについて。(「盆土産」)
- ・ 社会…地理分野で地域社会と言語の違いについて。(「方言と共通語」)

〈3年生〉

- ・ 音楽…合唱曲の音楽の表現と詩の言葉の解釈について。(「春に」)

- ・ 音楽，社会…能や狂言の内容や謡や楽器について。(古典芸能の世界)

3. 成果と課題

(1) 成果

古典作品やその中に描かれる人々の魅力について，魅力を感じた根拠や印象を表現する鑑賞活動を通して考えを深めることができた。生徒たちは現代にも通じるものの見方や人間らしさ，あるいは日常では起こりえない非現実性に，作品成立時や現代にいたるまでの読み手がいかに惹きつけられていったのかを様々な視点を持って考察していた。それらを言葉によって表現し交流することで，自らの考えを深め，新たな魅力の発見を実感できていた。また，多様な観点から作品を読み，交流したことで作品に対する新しい視点が得られ，古典で描かれる世界により関心を持ったことが振り返りからも窺えた。(1年)

「盆土産」という方言が登場する作品の指導を通して，日本の伝統的言語文化である方言の持つ温かさやコミュニケーションの手段としての有効性などについての理解が深まったのではないかと考えている。発展学習として作品の一部を金沢ことばで表現する活動では，グループによる群読を取り入れたが，日頃自分たちが使っている言葉を再認識したり，あまり使わない方言をお互いに確認し合ったりする場面が見られた。群読発表もそれぞれが工夫しながら楽しくでき，録画したものを相互に視聴もさせたが，方言を使う(伝統文化を継承する)ことに対する抵抗感を和らげることもつながったのではないかと感じた。(2年)

3年間積み上げてきた言語活動の集大成として和歌の歌合の活動を行った結果，生徒たちは話しをするときには思考力を必要とし，分かりやすい文章であることが大事だと実感していた。その中で，学んだ基礎知識を生かして様々なことに思いを馳せながら現在の自分の「心のありよう」と重ねて考えることができた。和歌の背景の理解のために行った連携は生徒の感想からも効果的であることが分かった。「月の形から色々なことが考えられていて素晴らしいと思った。三日月が辛さによって奪われていく愛情を表しているという考え方は私にはなく，おもしろかった。」など，月の形を具体的に想像することから心情の読み取りにつながったと考えられる。(3年)

(2) 課題

今回，古典作品に対する捉え方や観点を中心とし，その内容や世界観を読み取るための読解を行ってきた。しかし，伝統文化における言語能力の向上を図るには，原文における表現や言葉の表し方に目を向けさせる必要性について整理会でも指摘があった。生徒の鑑賞も人物や世界観に注目するものが多く，その中で用いられる微妙な表現や印象に触れたものは少なかった。言葉がもつ価値を認識していくというねらいを達成するためにも，作品の細部にまで考えを巡らせられるような学習の視点が必要であると感じた。(1年)

「盆土産」という作品は，父親と家族との交流が描かれている作品である。その交流の手段として，「方言」によるコミュニケーションは主要なものではあるが，「……」で表現された「間」や無言の部分，行間などから読み取るべき事柄も多い。したがって，言葉(方言)で表現された部分だけに注目させることは，作品の扱いとしては不十分であったという点を課題としておきたい。

(2年)

古典作品の難しさに囚われることなく作品を楽しんでほしいという思いで取り組んできたが，まだまだ難しさを感じる生徒も多い。今後も作品の理解だけにとどまらず，生徒が作品の背景にも迫りながら自分たちとの共通点を見付け，自分の世界を広げられるようにしていきたい。(3年)

実践事例

国語 1 年

授業者 谷口 仁	授業日 7 月 18 日(水)	
授業クラス	1 年 1 ~ 4 組	関係・連携の考えられる教科等 音楽・美術
授業内容 印象に残った五・七・五について、作者の思いを想像して下の句をつけ、交流する。		
教科等で身に付けたい力（本時について） ・言葉の持つ人と人をつなげる力について、自分なりの考えを書いている。 【読む能力】	育成したい資質・能力 ③文化の伝承・創造への主体性など	
授業のポイント・流れ 連句という詩の形式や、俳句の成り立ちについて触れ、自分たちも同じような表現ができるかどうか、連句として連ねていった際にどのような印象や内容の変化が生じるかを考え、自らの表現活動に活かせるよう工夫した。 (前時の段階で) 心に残った五・七・五の句を選び、その理由を書く。また、内容を踏まえた下の句を考えてくる。 ①考えてきた下の句を短冊に書き、黒板に掲示する。 ②掲示された下の句について、心に残った理由と共に投票する。 〈生徒の投票理由〉 ・上の句は悲しい句だなと思いましたが、下の句を見て言葉の奥に強い決意が見える、素敵な句だと感じたから。 ・震災の被害にあった人たちに向けて、復興を応援しているのが良い。「このぼり」に対して「復興という川をのぼる」という表現が良かった。 ・大震災でたくさんものが壊れてしまったけど、下の句から「まだ負けてない、残された夢を絶対に叶えてみせる」という主張が伝わってきて、感動した。 ・いつものケンカのあたたかさとありがたさをしみじみと感じている様子が伝わってきて心に残ったから。字余りの表現も自然に感じられた。 ③言葉の持つ力について、自分なりの考えを書く。 ◎女川の生徒の句に、実際に下の句を考えつないでみることで、世界各地の人々の思いや、そこにこめられた言葉の力に対する考え方を深めることができた。また、短い音でいかに自分の心を表現するかを考えることで、「五・七・五・七・七」という歴史的な表現方法に対する関心や工夫を引き出せた。古典での百人一首の学習に関連させることで、表現する力や語感を磨くことにもつなげていきたい。		

実践事例

国語 1 年

授業者 谷口 仁	授業日 1 1 月 2 3 日 (金)	
授業クラス	1 年 1 組	関係・連携の考えられる教科等 美術・音楽・英語
<p>授業内容</p> <p>竹取物語と現代の作品を比較して、そこから具体的な特徴や印象を考える。</p>		
<p>教科等で身に付けたい力 (本時について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を比較・鑑賞し、その特徴を整理することができる。【関心・意欲・態度】 ・ 魅力を語るための観点を立て、「具体的な特徴」と「感じたこと・想像したこと」の対応をみつけることができる。【伝国】 		<p>育成したい資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度
<p>授業のポイント・流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本時の課題を知る。(4分) <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの活動を確認し、「観点」を意識して考える。 2 古典「竹取物語」と選んだ現代作品との相違点を整理する。(8分) 3 相違点を基に竹取物語の特徴と印象を書き出す。(8分) <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な特徴を魅力の根拠として押さえる。 ・ 作品の魅力を語るため、なるべく多くの特徴を発見する。 ・ 現代の作品と比較し、その相違点から特徴を捉える。 4 グループで「竹取物語」の具体的な特徴・印象を挙げ、観点ごとに整理する。(15分) <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習時に考えた「竹取物語」の魅力を振り返り、その魅力を語るための観点を二つ程度選ぶ。 ・ 「感じたこと・想像したこと」は作品の解釈であり、その根拠となる「具体的な特徴」を対応させることで、読み手にとって説得力のある文章になることを理解する。 5 具体的な特徴と印象の組み合わせを発表する。(10分) <ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の解釈が考えられるため、他グループの組み合わせも参考にする。 ・ 比較した現代作品との相違も併せて発表し、互いに参考にする。 6 本時のまとめ(5分) <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことを振り返る。(次の時間に鑑賞文を書くことを予告する) 		

実践事例

国語2年

授業者 端名 秀雄	授業日 10月24日(水)	
授業クラス	2年 1～4組	関係・連携の考えられる教科等 社会
授業内容 作品（『盆土産』三浦哲郎）に描かれた方言の温かさやコミュニケーションの手段として優れた点を理解する。 作品の一部を自分たちが用いている言葉（金沢ことば）に言い換えて朗読する。		
教科等で身に付けたい力（本時について） 知識及び技能 共通語と方言の果たす役割について理解することができる。【伝国】 作品の特徴を生かして朗読することができる。【読む能力】		育成したい資質・能力 ①日本の伝統や文化に関する理解 ③文化の伝承・創造への主体性など
授業のポイント・流れ		
<p>単元計画（全3時間）</p> <p><金沢ことばで朗読しよう</p> <p style="text-align: center;">（『盆土産』></p> <p>0：作品の方言で表現された部分に注目し、方言の効果について考える。</p> <p>1：上記の部分を自分たちが用いている金沢ことばで表現してみる。</p> <p>2：金沢ことばで表現したものを4人グループで群読する。</p> <p>3：前時の記録を視聴し、金沢ことばについて考える。</p>	<p>4人グループ×10で活動。（本時は単元計画の2）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 作品の一部を金沢ことばに直したものを、グループ内で相談して読み方を決める。 2 読みの練習をする。 3 班ごとに前で発表する。 4 聞いている生徒は評価表に記録する。 5 教師はレコーダーで発表の様子を録画する。 <p style="text-align: center;">（次時 単元計画の3）</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 録画した映像を視聴し、金沢ことばの特徴や良さについて考える。 	

実践事例

国語3年

授業者 早谷 憲子		授業日 7 月 13 日(金)
授業クラス	3 年 1 ~ 4 組	関係・連携の考えられる教科等 英語
授業内容		
表現の仕方を工夫して心情や情景などが伝わる俳句を作る。		
教科等で身に付けたい力（本時について）		育成したい資質・能力
・感動の中心が伝わるよう、語順、表現の仕方を工夫して俳句を作ることができる。【伝国】		③文化の継承・創造への主体性
授業のポイント・流れ		
<p>1 本時の課題を知る。（5分） 作った俳句を句会で披露することを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな俳句をどうやって作ればいいのか。 ・どんなテーマで作ろうか。 <p>2 俳句を作るときの観点を確認する。（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季語が二つ入っていないか。 ・定型になっているか。 ・情景や心情が伝わってくるのか。 ・足りない言葉はないか、同じ内容を繰り返していないか。 <p>3 テーマを決めて俳句を作る。（30分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夏」の季語にはどのような言葉があるのだろう。 ・「バナナ」や「プール」、「ナイター」も季語なんだ。 ・どういう時間帯だと気持ちがより伝わるのか。 ・切れ字を使ってみようかな。 <p>4 次回の句会をどのように行うのか、確認する。（5分）</p> <p>▽句会の仕方</p> <ol style="list-style-type: none"> ①句会では、名前を伏せて読み手が俳句を音読して発表する。 ②ノートに感想等をメモしながら聞く。 ③投票用紙でよい俳句を三句選び、何がよかったのか、何に心が動かされたのかを書く。 ④教師が投票用紙に書かれた感想を読みながら俳句に投票していく。 ⑤最後に全体で三位までに入賞した俳句を読み、誰の俳句かを発表する。 		

実践事例

国語3年

授業者 早谷 憲子	授業日 11 月 23 日(金)	
授業クラス	3 年 4 組	関係・連携の考えられる教科等 家庭・理科
授業内容 歌合を通して、和歌で「月」がどのように作者の「心のありよう」を表しているのか、分かりやすく伝える。		
教科等で身に付けたい力（本時について） ・「歌合」で話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、和歌の「心のありよう」に関する考えを広げたり、深めたりできる。【話すこと・聞くこと】	育成したい資質・能力 ②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度	
授業のポイント・流れ <ol style="list-style-type: none"> 1 本時の課題を知る。（5分） <ul style="list-style-type: none"> ・歌合の手順と判者の役割を確認する。 ・判定シートと批評メモの書き方を確認する。 ・歌合の時の座席を確認する。 2 歌合の準備をする。（15分） <ul style="list-style-type: none"> ・歌披露の練習をする。 ・自分たちの和歌の賞賛を確認する。 ・批評するポイントを考える。 ・誰が何をするかを確認する。 3 「歌合」を行う。（25分） <ul style="list-style-type: none"> ・今回、歌合をする班と判者を決める。 ▽歌合について <ol style="list-style-type: none"> ①歌披露をする。（2） ②和歌の賞賛を各班交互に行う。（3） ③作戦タイムで相手の班をどう批評するか、批評にどう答えるかを考える。（3） ④お互いの和歌を批評したり、応戦したりする。（4） ここでは、一問一答の形で批評し合う。 ⑤判者が勝敗を判定する。（5） <ul style="list-style-type: none"> *判者の判定基準 <ul style="list-style-type: none"> ・「歌披露」では和歌のよさは伝わったか。 ・「月」に表れている作者の「心のありよう」は分かりやすく伝わったか。 ・的を射た批評や分かりやすい応答ができていたか。 ・今まで学習したことを踏まえて、今の自分の「心のありよう」とも照らし合わせて話すことができているか。 4 判者を担当した班の勝敗やその理由を発表する。（5分） <ul style="list-style-type: none"> ・歌合で、どちらがなぜ勝ったのかを分かりやすく発表する。 		

